

淡路の牛乳～！

淡路島の特産物が乳用牛の理由

牛を育てるには牛は臭くて暑い所が苦手なので扇風機(せんぷうき)などをかけて涼しくしなければいけません。でもそうすると、臭いにおいがどんどん広がってしまいます。だから、牛を育てるには周りに家のない広い土地が必要です。淡路には、自然の広い土地があるので乳用牛が特産物なのです。



① 飲む

実際、飲んでみると甘くて、味が濃くて、おいしかったです。みんなの意見は、「チーズみたい。」「においが独特。」「おいしい。」「後味が、とても甘い。」ということでした。

② 淡路の牛乳パックについて

「淡路島の牛乳は、酪農家がたんせいこめて育てた淡路の牛の生乳だけを使用している。」(牛乳パックに書いてあった言葉) これをみて心をこめて牛乳を作っているということがわかります。
* たんせい・・・一生けん命

えさについて

牛のえさ・・・わら
牧草
配合



(とうもろこし、大豆、油かす、ビールかす、ピートパルプ、チモシー、アルファルファ、綿実)

飼料の種類	配合割合	飼料の名称
とうもろこし	20%	とうもろこし、大豆、油かす、大豆
大豆	10%	大豆、油かす、大豆
油かす	10%	大豆、油かす、大豆
ビールかす	10%	ビールかす
ピートパルプ	10%	ピートパルプ
チモシー	10%	チモシー
アルファルファ	10%	アルファルファ
綿実	10%	綿実



※これは、綿実→

えさについて気をくばっていること

- ◎ 一頭、一頭、えさのわり合いがちがいます。ちちの出る牛には、配合を多くあげます。ちちの出ない牛には、牧草を多くあげます。
- ◎ えさは、朝、昼、夜、ねる前の、4回あげます。(一番多く食べる牛は、20キログラムはっている配合の10キロ以上は食べるそうです。)



◎ 淡路では、えさにハーブをまぜてあげることでミルクの風味をよくする研究がされているところです。

牛の栄養ざい

牛の栄養ざいは、パンカルG(ビタミンざい)で1ふくろに1キログラム、入っています。



牛の子供

牛の子供は、親が出した牛乳を飲んでくらしています。これは、牛の赤ちゃんです。牛の赤ちゃんは、お母さんから直せつ飲むことができません。お母さんのミルクは売るためにとらないといけなからです。

だから、お母さんが出した牛乳をバケツに入れてそして、そこから赤ちゃんが飲んでいます。



ちちしぼり



今は、手では、しぼらず機械でしぼっています。

これが機械の「さくにゆう機」です。
ガッチャン シュワ シュワ！
ものすごいはやさです

ミルクをしぼる前は、ぴちぴち。

これがぴちぴち→

でもしぼった後は、しよぼしよぼ。

←これがしよぼしよぼ



健康について

牛の健康を見る方法は、牛の鼻はいつもぬれているけど、鼻がかわいていたら熱が出ていることが分かります。そして、牛の体は、毛におおわれているので、鼻や乳の色、足こしなどを毎日、気をつけて見ています。そして、**牛を健康にするため**にすることは、まず栄養ざいをあたえることや、つめをのばしていると自分の乳をふんでしまって乳が出るあなをつぶしてしまい、ミルクがでなくなってしまうので年に二回、牛のつめを専門家の人にきってもらいます。牛舎に牛を入れるときに牛舎の前にあるしょうどく液で足をあらいます。また、毎日ブラッシングをして気持ちよくしてあげたり、春に牛舎のそうじをします。ダニやほこりが牛につかないように開け放してそうじをするそうです。



牛は、人間と同じで毎日の声かけが大切です！！
→



病気について

牛の病気には、熱や「乳ぼうえん」という病気になったりえさを食べなくなる「食たく」という病気になります。また、あまり立ちすぎるとアキレスが切れます。すべるとだぼくになります。まっすぐに立ってすべりにくくするためにつめを切ります。牛には、人にうつる病気もあります。それは、牛と人間の共通の病気、「ブルヘラ」・「たんさ病」などの病気があります。そこで、毎年ぜったいに血などのけんさをします。また、きれいなものをむりに食べさせるとげりになります。



病気をふせぐ方法は、よくミルクをしぼることです。しぼり残しがあると病気の元になります。でも、しぼりすぎもいけないので注意をしながらしぼります。そして、6月前にかにさされてもだいじょうぶなように予防注射をします。かにさされたり、かぜをひいたりして病状がひどくなるとこうせいぶっしつの注射をしなければなりません。

でも、その注射をすると一週間位はそのミルクは出荷できません。一週間後、けんさをして、合格すれば、やっとミルクをだすことができます。

ほかの牛にうつる病気の場合その病気になった牛を焼いてうめてしまいます。

また、牛は、暑いのが苦手なので夏は、屋根に水をまいたり、せんぷうきをかけてあげて室内の温度を下げます。



(沖縄などでもこのような方法をして室内の温度を下げます)



にんしん中の牛です！もうすぐうまれます！

(にんしん中の牛はとてもちちが、**小さく**なります。そして、ミルクは、でなくなります)

乳用牛は、白黒のもよりの牛だけじゃなく**真っ黒**

の牛もいます。→



ミルクについて！？

質問1 乳用牛はオスでも、メスでも、ミルクを出しますか？

答え 出産後のメスだけ、ミルクを出します。

質問2 1頭につき、1日どれくらいのミルクをしぼれるのですか？

答え だいたい1日30キログラムミルクを出す。そのうち1リットルは赤ちゃんのミルクになります。

質問3 牛が何才ぐらいから、何才ぐらいまでミルクを出すことができるのですか？

答え 生まれて24ヶ月でミルクを出し始め、7才から8才までミルクを出す。赤ちゃんを1年～1年半で1回産ませます。(たねつけ)

出産前の3～4ヶ月は、休ませます。

質問4 おいしいミルクを出す秘密は？

答え とにかくえさ！
栄養があるえさです。



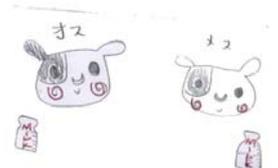
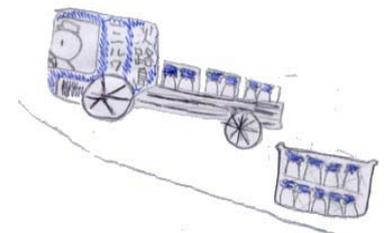
質問5 しぼったミルクをどこへ送られるのですか？

答え 6割が、大阪
2割が、四国
2割が、淡路

質問6 ミルクを出せなくなった牛は、どうなるの？

答え 肉処分！細かく切ってミンチにします。
骨も皮も、利用します。

質問7 出産後のメスは、1回子供を産んだら、何才から何才までミルクを出しますか？



答え 1年に、1かい子供を産んで、1年に1回子供を産まなかったらだんだんミルクが、出なくなってくる。

質問8 1日ミルクを何回しぼりますか？

答え 朝夕二回ミルクを、しぼります。

質問9 生まれた牛は、何キロですか？

答え だいたい50kgです。

質問10 ミルクをいっぱい出すためには？

答え 胃をじょうぶに、大きくすることです。

質問11 しぼる前に、何をしますか？

答え しぼる前に、ぬのでふきます。しぼった後は、薬を付けてバイキンを入らないようにします。



酪農家の苦勞

酪農家(牛を育てている農家の人)は、病気になっても頭が痛くても、薬を飲んで牛の世話をします！ なぜかというとな牛の乳をしぼったり、うんちのかたづけなど休んではいられないからです。

牛のうんちはほっておかなくても臭いのでほおっておくと、とんでも臭くなります。ほかに、えさや、牛が病気になっていないかということも 見なければいけないからです。牛のつめ切りもしなければいけないし、ブラッシングややるのが山ほどあるので牛の世話は、ホントに大変です。だから、一日の旅行にも行けません。

～おまけ～

質問 牛は、いびきをかきますか？

答え 牛は寝る時、フーフー言っていびきをかきます。

質問 牛の寝方はどんな感じですか？

答え すわった状態で、ちょっと首をまげて寝ます。

質問 牛は、草が好きですがお肉も好き？

答え 草は、好きですがお肉は大っ嫌い！！

質問 牛の鳴き声は、どんなのですか？

答え モーなんて迫力ではなくて、モオオオオオて感じでした。



質問 生まれた牛は、立てるのですか？

答え 生まれて、4・5時間で、立てます。

感想

私は、乳用牛の事を、たくさん知りました。初めは、分からないことがたくさんあったけど、本を見たり、パソコンで調べたりしてよくわかりました。淡路に乳用牛を飼っている人にも電話をかけたりして、もっと乳用牛のことが、くわしくわかりました。牛は、メスだけが、ミルクを出し、オスは、ミルクを出さない。ということが、わかりました。(M. N)

乳用牛グループに、なって初めて本物の牛を見ました。最初は、怖かったけど後になつたらちょっとだけ怖くなくなりましたが、やっぱりちょっと怖いです。そして、牛を飼っている人に話を聞いたら旅行に一度も行った事がないと聞いたので「エー」と、思いました。私の中で最後まで解明されなかったなぞは、牛舎に入れられていて運動が出来ないので、普通人間だったら運動しなかったら太っちゃうのに、見に行ったらみんなガリガリだったので何でかな？と思いました。牛は、草食動物でベジタリアンだから太らないのかな？一瞬見ただけならちょっとポチャッリなのに・・・。(S. K)

乳用牛のことを勉強して、乳用牛の健康管理の仕方や、乳用牛がかかる病気が、わかりました。他に牛は人間と同じで声かけが一番いい、ということもわかりました。(A. M)

私は、乳用牛のことを勉強して分かったことがたくさんあったけどその中でもいちばんびっくりしたことが、二つあります。一つ目は、淡路がしている牛の暑さ予防が沖縄県もしていたことです。二つ目は、牛は全部体のもようが同じだと思っていたけど真っ黒な牛もいたということがとてもびっくりしました。(M. M)

ぼくが最初乳用牛のことを勉強して分かった事がいっぱいあります。まず、牛のえさがわかりました。ぼくは、牛のえさをわらだけとと思っていたけどいろんなえさがあってびっくりしたことです。

次は牛が出した牛乳は、「そのままだと子供には、とてもこいくて飲めない」と、おばちゃんが言っていました。牛のしぼりたてのミルクを見てみると湯気がでていました。ぼくは、そのときすこしだけ不思議に思いました。それは、つめたいと思っていたからです。でも、よく考えると、おしっこもしたら湯気が出ていたことに気がつきました。ぼくは、しぼりたてのミルクが温かいことを実感しました。(Y. T)

淡路の牛乳を調べて、酪農家の人は、すっごくつらいカゼとかでも牛がか

わいくて、大事だからがんばれるんだなあーと、思いました。淡路の牛乳は酪農家が一生けん命育てた牛だから、あんなにおいしいということが分かりました。淡路の牛には、いろんな思いがこめられているということも分かりました。(R. I)